

問題
1

将来推計人口

▶ 目標 I ▶ 大項目-1 ▶ 中項目-B

日本の将来推計人口(令和5年推計)において2070年の総人口に占める65歳以上人口の割合に最も近いのはどれか。

1. 10%
2. 25%
3. 40%
4. 60%

問題
2

年齢別人口

▶ 目標 I ▶ 大項目-1 ▶ 中項目-B

15～64歳の人口年齢区分はどれか。

1. 年少人口
2. 老年人口
3. 従属人口
4. 生産年齢人口

問題
3

平均世帯人員

▶ 目標 I ▶ 大項目-1 ▶ 中項目-B

日本における令和5年(2023年)の平均世帯人員に最も近いのはどれか。

1. 2.2人
2. 3.2人
3. 3.5人
4. 4.0人

問題
4

出生数

▶ 目標 I ▶ 大項目-1 ▶ 中項目-B

日本の令和6年(2024年)における出生数に最も近いのはどれか。

1. 69万人
2. 81万人
3. 105万人
4. 122万人

解説 1

▶正答 3

- 1 ×
 2 ×
 3 ○
 4 ×
- 国立社会保障・人口問題研究所による日本の将来推計人口(令和5年推計)では、2070年には**年少人口**は、**9.2%**まで低下すると予測されている(中位推計)。一方で、2070年には**老年人口**は、**38.7%**(約40%)まで上昇すると予測されている(中位推計)。

解説 2

▶正答 4

- 1 × 0～14歳の人口を年少人口とよぶ。
 2 × 65歳以上の人口を老年人口とよぶ。
 3 × 年少人口と老年人口の和を従属人口とよぶ。
 4 ○ 15～64歳の人口を**生産年齢人口**とよぶ。

解説 3

▶正答 1

- 1 ○
 2 ×
 3 ×
 4 ×
- 2023(令和5)年国民生活基礎調査において、平均世帯人員は**2.23**人で、減少傾向が続いている。2022(令和4)年の調査結果では、2.25人であった。

解説 4

▶正答 1

- 1 ○
 2 ×
 3 ×
 4 ×
- 日本における出生数の推移をみると、戦後、第1次ベビーブームの1947～1949(昭和22～24)年に260万人台と最高を記録したあとは減少傾向にあったが、第2次ベビーブームの1971～1974(昭和46～49)年に200万人前後と再び増加した。その後は長期的な減少が続き、2024(令和6)年は**68万6,061**人と過去最低となった。